

キャラクター名
富田 雄二

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ ノイマン		ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	体育教師
	オプション		年齢	33	性別	男
覚醒	無知	衝動	自傷	初期侵食率	33	%
出自	疎まれた子	経験	挫折	邂逅	恩人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	2	0	0			2	行動値	7
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	7
精神	4	1	0			5	戦闘移動	12
社会	1	0	0			1	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:レネゲイド	4		情報:UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:噂話	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
クリスタルシールド	白兵	2r	12			

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ:噂好きの友人	
コネ:UGN幹部	
思い出の一品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
守護者	P	N		
叶 未来	P	憧憬	N	劣等感
『学校』	P	執着	N	隔意
	P		N	
	P		N	
	P		N	
	P		N	

最大財産P: 4 残り財産P: 15

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
アドバイス	5	4	Xジャー					
効果:	C-1 判定D+Lv							
戦場の魔術師	2	3	Xジャー					
効果:	対象を3体に拡大 シリア[Lv+1]回							
ブラックマーケット	3	基2	常時					
効果:	常備化点+[Lv*10]							
加速装置	3	2	セットアップ					
効果:	行動値+[Lv*4]							
マグネットフォース	1	2	オート	至近	単体			
効果:	カバーリングを行う							
磁力結界	3	3	オート		自身			
効果:	ガード値+LvD							
弱点看破	3	3	Xジャー					
効果:	R間攻撃力+[Lv*3]							
勝利の女神	4	4	オート				100%	
効果:	達成値+[Lv*3]							
代謝制御	★							
効果:	感情をコントロールできる							
電子使い	★							
効果:	電子媒体の読み取りが可能							
シークレットポケット	★							
効果:	こっそり物を隠しておける							
効果:								
効果:								

旭丘高校の新米体育教師。年齢がそこそこいっているのは臨時採用として勤務していた期間が長かったためである。明るく爽やかな性格、ノリもそこそこ良く何事も生徒目線で考えることをモットーとしている。すらっと背が高く、顔立ちもそこそこ整っていることもあり、生徒からの人気は無条件に高かったりする。反対に生徒たちの満足度を重視しすぎるきらいもあり、授業の進度や対応の仕方など他の先生からの評価はイマイチ。

生徒たちから相談を受ける機会も多いが、あまり深く踏み込み過ぎないようにしている。適度に話を聞いては生徒たちの中で解決させたり、他の先生に振ったりetc...そのため、親身に話聞いてくれるものちゃんと生徒たちの中では解決した気になるため余計人気は増し、先生たちは無駄に振られるので白眼視される、というわけでもある。

チルドレン寄りのUGNエージェントであり、戦闘員として配備されてからもそこそこ長い。覚醒時のショックで記憶の大部分が剥落しており、日常生活から暫く離れ血なまぐさい戦場で日々を過ごしていた。しかしその中で一人のチルドレン教官と出会い、一緒に指導に当たらせてもらうことで、少しずつ人らしい感情を取り戻していく。指導は厳しかったが、その鮮烈な経験から「人を教え導くこと」に並々ならぬ憧れ、もとい執着を見せることとなる。

しかし、ノイマンシンドロームに覚醒した彼は人に何かを教えるより先に「相手が何を言ってほしいか」を察知してしまうことができしまい、社会経験の少なさゆえに大きくそれに影響されてしまう。他人に何かを教えるには致命的に向かない。それでも社会復帰の一環としてUGNの支援を受けながら学校に通い、学術的指導の要素が比較的少ない「体育」科目を選択し、適性がないことをうすうす理解しながらも採用試験に挑み続け、頭が回りすぎるがゆえに「教師として」適切な行動をとり切れずに落とされては臨時職員として一年おきに色々な学校で子供たちとかかわり続けてきた。採用試験の合格率から最後の一年と挑んだ20代最後の試験でようやく合格を治めるも、後に「潜入する際の顔としてより社会的地位のある形」のためにUGNの口添えがあったことを知ることとなる。